

info

インフォメーション



医療事故・紛争対応研究会 第6回年次カンファレンス

日時●12/10(土)
会場●パシフィコ横浜会議センター(神奈川県横浜市)
対象●医師・看護師・薬剤師・医療技術者・事務職員・医療安全管理者など
プログラム●「医療事故の患者への情報開示と謝罪」司会：前田正一(慶應義塾大学大学院准教授)「情報開示と謝罪——人として大切と思うことの実践」高橋長裕(千葉市立青葉病院病院長)「看護過誤事件において、看護師ではなく医師を相手に提訴した理由」永井裕之(医療事故被害者遺族)「アメリカにおけるソーリーワークス運動——日本への示唆」児玉聡(東京大学大学院専任講師)「賠償責任の要件からみた噂話への疑問——「謝罪すると裁判で負ける」のか」前田正一／会員報告 座長：安部喜八郎(九州大学病院准教授)「インシデント報告システム導入後の比較検討」西川原佑美 他、「遺伝子解析研究における紛争事例の分析——ICとヒト由来試料の扱いの問題を主題として」伊吹友秀、「諸外国における臨床倫理コンサルテーションの現状に関する文献研究」植田有香 他、「医療事故に関する賠償責任保険に係る法的検討——保険金が支払われない結果となった裁判例等の分析」高宮雄介 他、「【症例報告】転落事故における検討をとおして」宮内とも子 他／「病気についてのつらい知らせ——がん告知」座長：清水哲郎(東京大学大学院教授)「つらい知らせをすること——苦悩・意義・現場対応」久保千春(九州大学病院病院長)「本人への不告知を「家族」から依頼された場合——不告知に対する裁判所の考え方、日米比較」丸山英二(神戸大学大学院教授)「哲学者からみた、つらい知らせ」清水哲郎／「こころの交流——科学の理論と精神の理論」他
定員●750人(先着順)
参加費●会員4000円、非会員5000円、学生3000円
申し込み●ホームページより申込書をダウン

ロードし、FAXにて
問い合わせ●医療事故・紛争対応研究会
FAX 0120-286-575
E-mail infomcm-group@umin.ac.jp
URL <http://plaza.umin.ac.jp/dhsc/index.html>



認知症をめぐる動向と訪問看護 とらえ方とかかわり方を学ぶ

日時●12/10(土)
会場●AP 浜松町(東京都港区)
目的●認知症をめぐる最新情報、認知症症状の見方とかかわり方の基本、在宅生活を支える訪問看護の役割と実際、公開コンサルテーション
対象●訪問看護ステーション管理者・従事者
プログラム●「認知症の理解」木之下徹(こだまクリニック院長)／「訪問看護ステーションにおける認知症の実際」矢田みゆき(訪問看護ステーション来夢所長)／「公開コンサルテーション」木之下徹・矢田みゆき
定員●約100名
参加費●会員6000円、非会員1万8000円
申し込み●ホームページより申込書をダウンロードし、FAXにて
問い合わせ●全国訪問看護事業協会事務局
TEL 03-3351-5898
FAX 03-3351-5938
<http://www.zenhokan.or.jp/>



病院管理 中間管理者研修 中間管理者が病院の経営基盤を支える

日時●12/16(金)・17(土)
会場●ホギメディカル本社ホール B1(東京都港区)
対象●医療機関および関連施設職員
プログラム●「2012年の医療・介護報酬同時改定の方針と対策——急性期医療の機能強化(医療資源の集中投入)、慢性期入院医療のあり方の変化(13対1・15対1の行方)、在宅医療・在宅支援の充実」中林梓(ASK 梓診療報酬研究所所長)／「コーチングを用いた育成コミュニケーション術——コーチング・キャリア開発、リーダーシップ」米本倉基(岡崎女子短期大学教授)／「病院における投資と経営——財務諸表、投資計画、経営分析」松岡博(国家公務員共済横浜南共済病院事務部長)／「人的資源活用の基本的理解——採用から管理まで」田中利樹(聖路加国際病院人事課チーフ)／「医療は文化活動 地域に必要な病院とは——

地域(住民)ニーズを捉える、人材育成、教育 どんな人材を育てたいか、企業文化」油井博一(長野県厚生連佐久総合病院事務長)
定員●96名(定員になり次第締め切り)
参加費●会員2万1000円、非会員2万9000円
申し込み締切●12/7(水)(定員になり次第終了)
申し込み●ホームページより申込書をダウンロードし、FAXにて
問い合わせ●社団法人 病院管理研究協会(担当：安部尚子)
〒106-0022 東京都新宿区新宿 1-29-8 公衛ビル
TEL 03-3352-2575
FAX 03-3352-2575
E-mail byokan@crest.ocn.ne.jp
URL <http://www5.ocn.ne.jp/~byokan21/>



第62回 国際看護研究会講演会

日時●12/17(土)
会場●JICA 地球ひろば(東京都渋谷区)
テーマ●「開発援助の経験を生かした東日本大震災の支援(仮)」今井家子(今井災害看護研究所)
参加費●会員無料、非会員500円
申し込み●不要
問い合わせ●研究会事務局
〒125-0062 東京都葛飾区青戸 3-19-9-308
FAX 03-3602-4414
E-mail kokusaijango@iris.ocn.ne.jp
URL <http://www.jsin.jp/>



第4回 日本キネステティック研究会

日時●12月17日(土)
会場●宮城大学大和キャンパス(宮城県黒川郡)
プログラム●特別講演「生のひろがり、命のつながり」玄佐宗久(東日本大震災復興構想会議委員・作家・臨済宗福聚寺住職)／教育講演「地球で生きる知恵と技～日本へのキネステティック導入10年を振り返って」徳永恵子(宮城大学大学院看護学研究科教授)／研究報告
参加費●会員2000円、非会員5000円
問い合わせ●日本キネステティック研究会事務局
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町 519

洛陽鶴巻町ビル 3F 春恒社学会事務部内
TEL 03-5291-6231
FAX 03-5291-2176
<http://www.myu.ac.jp/~jka/>



東日本大震災チャリティー講演会 認知症／高次脳機能障害のための デザイン、各種ツールや情報機器 による支援を考える

日時●12/17(土)
会場●東京大学工学部(東京都文京区)
プログラム●特別講演「震災後の認知症の方の状況について」(仮)加藤伸司(東北福祉大・認知症介護研究・研修仙台センター)／一般発表「安全な自立生活を持続するための支援機器(仮)」二瓶美里(東京大学)、「在宅認知症者のための住まいの工夫：事例から学べること」大島千帆(早稲田大学)、「認知症介護におけるデザイン領域からのアプローチ」山崎正人(スタジオ代／東海大学)、「機器を用いた認知症者のためのスケジュール把握支援手法の開発」石渡利奈(国立障害者リハビリセンター研究所)、「高次脳機能障害者を支援する機器」中山剛(国立障害者リハビリセンター研究所)、「記憶障害や認知症の支援する Low テクと High テクツール」安田清(千葉労災病院／京都工芸繊維大学)、「パートナーロボットとの対話による高齢者支援」井上剛伸(国立障害者リハビリセンター研究所)
参加費●2000 円(諸経費を除き震災復興のために寄付)
懇親会 1000 円別途(先着 40 名)
申し込み●不要(先着 300 名)
連絡先●千葉労災病院リハビリ科(安田清)
FAX 0436-74-1151



第 35 回 日本リハビリテーション工学協会 車いす SIG 講習会 in 高知

日時●2012 年 1/28(土)・29(日)
会場●高知県立ふくし交流プラザ(高知市)
プログラム●車いすの基礎 ①生活と車いす、②身体寸法計測と車いす寸法、③車いす基本機能と構造との関係、④車いすクッションの基礎と選択、⑤電動車いすの種類と活用のすすめ、⑥高齢者・片まひ者の車いす適合の考え方と工夫、⑦アクティブ・バランス・シーティングの考え方
定員●20 名(先着順)
参加費●1 万 2000 円・1 万 4000 円・1 万 6000 円・2 万円(加盟団体等により異なり、テキスト代金を含む)

申し込み締切●12/20(火)(定員になり次第終了)
申し込み●ホームページより申込書をダウンロードし、FAX にて
問い合わせ●車いす SIG 講習会事務局(担当：深野栄子)
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1770
横浜市総合リハビリテーションセンター地域リハビリテーション部研究開発課内 横浜市リハビリテーション事業団事務局経営部
TEL 045-473-0666
FAX 045-473-0836
URL <http://www.wheelchair-sig.jp>



木村看護教育振興財団 平成 24 年度看護研究・海外看護 研修助成

1. 看護研究助成

助成対象●看護の質的發展・充実が期待できる先駆的研究で未発表のものに限る。共同研究も可。(助成の分野：基礎看護・成人看護・老年看護・小児看護・母性看護・精神看護・地域看護・看護管理・看護教育・その他)

応募資格●①日本在住の看護職者で臨床・地域看護に従事している個人、または前者を共同研究者に含むチーム ②倫理的に許される研究であること ③関係所属長の許可・推薦があること

助成金額●1 件につき 100 万円を限度

2. 海外看護研修助成

研修先●メイヨークリニック(米国ミネソタ州)

人員●10 名

期間●2012 年 9 月下旬から渡航日数を含めて約 3 週間

助成範囲●研修費、宿泊費、成田発着の往復渡航費

応募資格●①看護師、助産師、保健師いずれかの有資格者 ②看護実務経験が 5 年以上あり、現在臨床現場に従事している者 ③心身ともに健康で、原則として 50 歳以下であること ④関係所属長の推薦があること ⑤応募時に「TOEFL」の PBT400 点以上、CBT97 点以上、IBT45 点以上であること
【以下 1、2 に共通】

公募期間●2011 年 12/1(木)～2012 年 1/20(金)

応募方法●応募用紙の請求は、「看護研究」または「海外研修」と明記し、返信用封筒(定型最大に 90 円切手貼付、両方の場合は 140 円切手貼付)を添え、財団事務局まで問い合わせ●事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-14
本郷竹下ビル 8F
TEL 03-5800-2700

FAX 03-5800-0022
E-mail nurseed@tky2.3web.ne.jp
<http://www2.tky.3web.ne.jp/~nurseed/>



第 16 回 日本在宅ケア学会学術集会 第 14 回日本在宅医学学会大会

日時●2012 年 3/17(土)・18(日)
会場●ホテルグランドパレス(東京都千代田区)

メインテーマ●日本復興のための在宅医療・在宅ケア

プログラム●会長講演「在宅ケアのかたち」原礼子(慶應義塾大学医療看護学部教授)／リレー講演「復興——これまでそしてこれから——被災地からの発信」齋藤裕基(岩手県：ウェルファー)・佐竹悦子(宮城県：名取市健康福祉部仮設住宅管理室)・三瓶弘子(福島県：相双保健福祉事務所保健福祉課／特別講演「ケアの時代を生きる」田畑邦治(白百合女子大学)／合同記念シンポジウム「在宅医療・在宅ケアへの IT 導入——現在そして未来」／勇美記念財団助成シンポジウム「事象の真実および経験をいかに在宅医療に生かすか」／一般演題発表(示説)／交流セッション／ランチョンセミナー

参加費●

(事前)会員 8000 円、非会員 9000 円
(当日)会員 9000 円、非会員 1 万円

大学院生を除く学生 3000 円

参加申込み・一般演題募集●ホームページ参照

問い合わせ●事務局

〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤 4411

慶應義塾大学看護医療学部

TEL 0466-49-6228

FAX 0466-49-6228

E-mail 16zaitaku@sfc.keio.ac.jp

URL <http://www.carework.org/jahhc/>